

2004 年 (平成 16 年) 11 月 1 日 月曜日 (毎月 1 日発行)

1 部 50 円 (消費税込・送料別)
発行所/天台宗出版室
発行人/出版室長 工藤 秀和
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内
電話 077-579-0022 (代)
Eメール/T-Press@tendai.or.jp

一隅を照らす運動推進会報

(一隅推進会員)
年会費 (2500円) 中に会報 (天台ジャーナル) 購読料を含む。

台風による風水害並びに新潟県中越地方地震被災者の皆様に
謹んでお見舞いを申し上げます

天台宗
一隅を照らす運動総本部

天台宗災害対策本部を設置

新潟県中越地震で、天台宗は十月二十五日天台宗務庁内に、西郊良光宗務総長を本部長とする災害対策本部を設置した。現地の対策本部と連絡をとりながら、救援募金の呼びかけや、物資の搬送、ボランティアの派遣窓口となる。すでに、近隣県の天台仏青を中心としたボランティア団は、現地入りのスタンバイを終えている。(27日現在)。

天台宗信越教区のうち新潟 法人寺院が二カ寺ある。非 法人寺院十九カ寺と、非 二十三日午後五時五十六

分に発生した地震について、二十四日には、西郊宗務総長はじめ、担当セクションである総務部、社会部、一隅を照らす運動総本部の職員が休日出勤して情報収集にあたった。その結果、本堂や仏像に被害が出たり、壁が剥落した寺院は六カ寺、被害なし、あるいは軽被害が四カ寺で、電話連絡不通や、応答なしが十一



震度6の大地震が新潟県中越地方を襲った。今も10万人を超す人々が避難施設や車、テントで暮らす。食料が、水が、電気が、ガスがない。10℃を下回る寒夜が迫る。私たちに出来ることを今すぐ！

法の灯

戒律と礼節

天台宗布教師会副会長 谷 玄昭

この夏の話題といえは連日の猛暑とともに、オリンピックでの日本選手の活躍ぶりでした。期待に応えた選手もあれば、惜しくもメダルに手が届かなかった種目もありました。プロ野球界の花形選手を集めて監督の名前から「長島ジャパン」と称された野球チームも、もてる技量からして金メダル間違いなしとファンの期待を背負って

集めて監督の名前から「長島ジャパン」と称された野球チームも、もてる技量からして金メダル間違いなしとファンの期待を背負って

プロ野球界の花形選手を集めて監督の名前から「長島ジャパン」と称された野球チームも、もてる技量からして金メダル間違いなしとファンの期待を背負って

集めて監督の名前から「長島ジャパン」と称された野球チームも、もてる技量からして金メダル間違いなしとファンの期待を背負って

救援先発員を派遣

また、二十五日天台宗では、一隅を照らす運動総本部から課長級を含む数人の職員を派遣。総本山延暦寺からも一名が参加した。同日夜に信越教区で開催された現地対策本部(小山健英対策本部長)の会議に出席して、物資の搬入ルートや人的派遣の具体的救援方法を協議すると共に、翌日には被災寺院を見舞うために現地入りした。

更に二十五日から召集された宗議会で、渡邊恵進天台座主猊下は「亡くなった方々のご冥福をお祈りすると共に、



地震により、仏像や什器が倒れたり、白壁の大部分が剥落(十日町市・大壽院で26日・災害対策本部撮影)

新潟県中越地震支援のお願い

天台宗新潟県中越地震対策本部では、被災された方々に対し、復興を支援いたしたく、緊急募金活動を行うことになりました。皆様からの善意は、新潟県災害対策本部に支援いたします。

郵便振替 口座番号 01050-1-69505
加入者名 一隅を照らす運動総本部
地球救援募金事務局
※通信欄に「新潟中越地震」と明記下さい。



鬼手仏心

忘路

天台宗出版室長

工藤 秀和

高く澄みわたった空の
ことを中国では「秋高气爽」
と呼ぶらしい。

漢字の国らしく、晴れ晴れ
とした雰囲気が出ている。
そんな秋空の下で、山道を
ぶらぶらと歩くのは何とも気
持がいい。

比叡山の古道でもそうだ
が、わたしの故郷でも山道を
歩くと、何体もの「野仏さん」
に出会う。村人が祠をつくっ
て、ていねいにお祀りしてあ
る野仏さんもあるし、そのま
ま野ざらしという仏さまもあ
る。前掛けがかけてあったり、
花やお水が供えてある仏さま
もあるが、数は、何にもない
野ざらし派の方が圧倒的に多

い。
頭が欠けていたり、手がか
けていたり、削り取られて半
身がなく、限りなく石に近い
野仏さんもある。けれども、
格好は悪いが、それぞれに、
それはそれで愛らしくもあ
り、ありがたいと思われるお
姿である。

りがたいと思えるのである。
禅宗には「忘路」という言
葉がある。今まで生きてきた
道を、サツと掃き清めて、過
去の事など何にもなかったよ
うに生きていく、という意味
である。そんな清々しい生き
方に憧れはするが、いろいろ
なしがらみがあって、簡単に
過去を捨てきれないのが人間
の厄介なところだ。
まずは、今日一日、新しい
心で生きることから始めてみ
たい。
頭や手や体という大事など
ころを全部捨てて、ついに捨
てるという意識すら捨てて
、野にある仏さまのお姿は、
秋風のように爽やかである。

花想 風言

オケラ（古名うけ
ら）の花を見たこと
があるだろうか。関
東は三浦半島・大楠
山の稜線や、横浜市内でも見かけ
る花だ。かつては武蔵野にも咲い
たらしい。

恋しきは袖も振らむを武蔵野の
うけらははなの色に出なゆめ
万葉集 卷十四一三七六

京都に住んだり、学生生活を送
った人なら経験があるのが大晦日
の夜、祇園・八坂神社の「オケラ
詣り」だろう。

社前の灯籠に乾燥したオケラの
根を混ぜて燃やし、参詣者は火繩
に種火を移して持ち帰り、元旦に
祝う雑煮を炊く伝統行事だ。

第8回 白朮 福田徳衍(文・写真)

大学のゼミ仲間、祇園の芸妓
さんが母という学生がいて「死
んでも父親の名前は明かせない」
らしい。彼と数名の仲間が大晦日
の夜、座敷を終え、すっぴんにセ
ーター姿の舞子さんや芸妓さんと
連れだっておけら詣りに繰り出し
た。贅沢や美食には縁はなかった
が、日本もボクもその頃が一番良
い時代だった。

翠年、皇太子ご婚約、狩野川、
伊勢湾台風と続き、安保闘争。揺
れる六十年代がやって来た。
キク科の多年草、根は陰干しし
て正月の屠蘇散の原料に使われ
ている。

◆プロフィール
五十六年生まれ。土蔵から十二
歳まで出家して小僧生活を送り、
元朝日新聞記者、信越教区新潟部、徳
法院住職。俗名福田徳郎。

『インド禅定林感謝の集い』に200名

▲正力松太郎賞、受賞・禅定林住職就任を祝う支援者

十月五日に、
京都市内のホテ
ルにおいて「イ
ンド禅定林感謝
の集い」(谷晃
昭実行委員長)
が開かれ、約
二百人が出席し
た。インド禅定
林は、サンガラ
トナ・法天・マ
ナケ師が住職を
勤めるインドの
天台寺院であ
る。今回の集い
は、サンガ師のインドにおける青少年教育と福祉活
動が認められ、今年五月に外国人として初めて正力
松太郎賞が贈られたこと、正式に天台宗の海外寺院
として承認され、六月に渡邊惠進天台座主親下より
住職辞令の親授があったことをふまえてのもの。サ
ンガ師の、協力者に感謝の言葉と現況報告を行った
という希望をかなえる形で開催された。
同日は開会にあたって谷実行委員長が「サンガ師



は、聖者ではなく、人々の中に入って生きること
活動目標にしており、インド社会の貧困層と生活を
共にし、教育、識字、巡回図書館などの活動を行っ
ている。サンガ師の敷衍する天台大師、伝教大師の
精神がインドの希望の光となっている。現在、禅定
林は、大乘の拠点として大本堂建立に取り組んでい
る。天台宗開宗二百年慶讃大法会記念事業の一環
として天台宗の強力な後援を頂いて、二〇〇七年に
完成予定である」と開式の辞にあわせて経過報告を
行った。

インドの大乘仏教復興に向けて

続いて来賓を代表して森川宏映毘沙門堂門跡門主
が「インドに、日本仏教をそのまま持ち込むことは
難しいが、本堂を建立して大乘仏教のメッカにした
いという考えに心より賛同している。一層支援をし
たい」と、また西郊良光天台宗事務総長が「サンガ
師の活動根本は、人権の復活である。カースト制度
を打破し、人間平等の実現にむけて頑張るって欲
しい」とそれぞれ祝辞を述べた。

また叡南寛範延暦寺建立院住職から「本堂建設
は、サンガ師の師僧である堀沢祖門師を支援する人
が計画され、禅定林の土地も購入されたことを忘れ
ないで頑張るって欲しい」と祝辞が贈られた。続いて
公務のために出席出来なかったサンガ師の育ての
親である堀沢師がビデオで「インド仏教は十三世紀
初めに滅んだ。しかし一九五六年に仏教は、人間平
等を主張するアンベドガル博士によって再びインド
の歴史に躍り出た。サンガ師の父は博士の弟子であ
り、サンガ師によって大乘仏教は再び復興しよう
としている。大本堂建立によって、そのことはスタ
トする」と述べ会場は拍手で包まれた。

そして、森定慈芳延暦寺執行の発声で乾杯に移
り、インドチャットイスガル州から駆けつけたワイ
ノード・カンデカル州議員を始めとする祝辞が相次
ぎ、建設説明も行われ、更に協力関係団体への感謝
状贈呈が行われた。

最後にサンガ師が「宗祖伝教大師の『一隅を照ら
す』精神が実践できるよう、今後一層仏道とパンニ
ヤ・メッタ・サンガの活動に精進を重ねる」と謝辞
を述べたあと、村上円電パニヤ・メッタ協会日本
委員会理事による閉会の挨拶により、なごやかな式
を閉じた。

談話室

仏教の散歩道



ひろ さちや

をわの支や/巻数。問かそい。ち8多。点かく広る。さ8多。々視く幅いる。る8多。様なすは。てひ経な。家のや口受に若心。作教りりを書般潮社。仏教の切持著の新

中学生の娘が、せっせとお小遣いを貯めています。母親が、「何に使うの...?」と尋ねると、父親へのプレゼントを買うためだ、と答えました。ここまでする仕打ち、誰もが親孝行な娘だと思えます。

ところで、娘が父親にプレゼントしたい物は、
——鬘——
なんです。それを聞いて、読者はどう思われますか? しかも、なぜ彼女が父親に鬘をプレゼントしたいかといえば、その中学校では父親参観日があった、禿げている父親が来るのが恥ずかしいからです。

鬘と補聴器と

「あれは、残酷な話だよ」と注意しておきました。幸いにも、義母は自分で補聴器を買って来て、使いくいものだから使わずにいます。だからよかったです。お父さんは醜い。そんな醜い父親の姿を友人に見られたくない。そう言われて、喜ぶ父親がいます。わたしは、怒りさえ感じますね。そうではありませんか。

「おまえは欠陥人間だ」と宣言していることになり、人間は年を取ると、みんな難聴になるのです。そうすると、結局は年寄りみんな欠陥人間だといっていることになるわけです。

「世界平和構築のために、毎年出席しています。今年も九月にイタリヤ・ミラノでの集いに参加しました。テロ行為に宗教を利用してはならない、ということと核兵器の根絶を訴えてきました。質疑応答では、教育者から『青少年に生命の尊さを実感させるためにはどうすればいいか』と聞かれるなど、会場から質問の周りがパツと明るくなるような笑顔である。『平田スマイル』は世界でも有名だ。通訳を介した会話よりも、人柄がにじむ笑顔で、相手の心を捉えてしまう。『ローマ教皇には、十一回お会いしました。握手を許されたときでも、通訳はいりません。ハートとハートで通じます。お互いにヤア!と笑って笑えば通じますよ。平和を築こうという心は同じです。』

「一回に八百人近くに戒を授けることもあるから、そりゃあ、疲れないといえは嘘になる。しかし、受ける人も真剣、授ける私も真剣、そこに意味がある。それぞれのお寺と檀信徒の結びつきも強固になる。それは私の使命で、責任は重大ですから、疲れたなどとは言ってはおられません。」



(カット・伊藤 梓)



ミラノで会場警備の騎馬警官と共に

京都・曼殊院門跡門主に就任した 半田孝淳 師

十月四日、天台宗門跡寺住職推薦委員会で、山口円道門主が五月に退任したのを受けて全会一致で京都・曼殊院門跡に推薦された。十一月一日付で就任することとなり、天台座主現下から直接辞令を手渡された。任期は七年。
——曼殊院門跡の運営にどのような抱負をお持ちでしょう。
「国宝、重文も数多い門跡寺院ですので、世に出して行きたいと思っています。観光バスが入る寺ではないので、心ある人に参拝して頂き、寺宝を見て頂ければ、と思います。」

「世界平和構築のために、毎年出席しています。今年も九月にイタリヤ・ミラノでの集いに参加しました。テロ行為に宗教を利用してはならない、ということと核兵器の根絶を訴えてきました。質疑応答では、教育者から『青少年に生命の尊さを実感させるためにはどうすればいいか』と聞かれるなど、会場から質問の周りがパツと明るくなるような笑顔である。『平田スマイル』は世界でも有名だ。通訳を介した会話よりも、人柄がにじむ笑顔で、相手の心を捉えてしまう。『ローマ教皇には、十一回お会いしました。握手を許されたときでも、通訳はいりません。ハートとハートで通じます。お互いにヤア!と笑って笑えば通じますよ。平和を築こうという心は同じです。』

長野県上田市で住職を務める常楽寺は天台宗の別格本山。千二百年前、八二五年(平安時代)に開かれた。北向観音堂は北斗七星の方向に建てられ、北向観音として有名。天台宗教学部長時代には滋賀県坂本に単身赴任以来、二十二年ぶりに京都へ。「まだもう少し整備もあるので、曼殊院門跡に就職しても、しばらくは行ったり来たり生活になると思う。今年八十七歳。総授戒では伝戒大和上を勤める。お疲れになりませんか。」

人柄にじむ『平田スマイル』

The Jendai Journal 天台ジャーナル

檀信徒の皆さまへの発送を代行します

本紙は、4月23日付で第三種郵便物に認可されました。認可により、全国への発送料が一律に60円という割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆様にも配布を頂きたく、定期購読のお願いを申し上げます。

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版室では発送業務の代行をいたします。詳しくは、出版室にお問い合わせ下さい。

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2
天台宗務庁 総務部 出版室
☎ 077-579-0022 FAX 077-578-4814

お問い合わせ

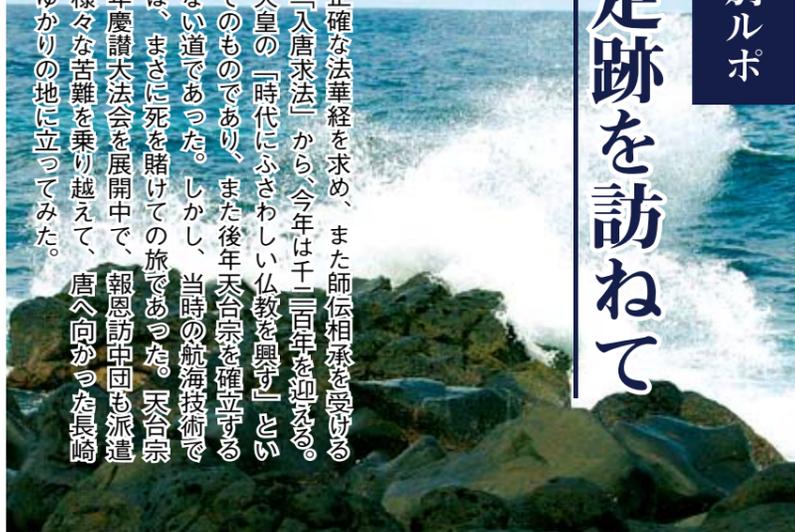
天台宗務庁 総本山延暦寺御用達

お数珠専門の老舗 小野珠数店

〒604-8045 京都市中京区寺町通蛸薬師下ル円福寺前町272
電話 075 (221) 2608 番
FAX 075 (256) 3288 番

伝教大師の足跡を訪ねて

宗祖伝教大師が、正確な法華経を求め、また師伝相承を受けるために唐へ渡られた「入唐求法」から、今年は千二百年を迎える。大師の入唐は、桓武天皇の「時代にふさわしい仏教を興す」という期待を一身に担ったものであり、また後年天台宗を確立するために避けては通れない道であった。しかし、当時の航海技術で唐へ渡るといことは、まさに死を賭けての旅であった。天台宗は、今、開宗千二百年慶讃大法会を展開中で、報恩訪中にも派遣されている。大師が様々な苦難を乗り越えて、唐へ向かった長崎県五島列島はじめ、ゆかりの地に立ってみたい。



日本の涯、より東シナ海を望む

東シナ海に砕け散る海

延暦二十二年四月に大阪難波津の港を出港した遣唐船は、暴風雨にあつて九州に上陸を余儀なくされた。翌年に唐へ向かうまで、宇佐八幡宮、神宮寺、龍門山寺などに航海の無事を祈念されている。翌延暦二十三年に再び遣唐使一行は大使・藤原野麻呂を中心に四隻の船団を組んで出発し、大師も合流して五島列島に入った。田ノ浦湾をはさんだ久賀島と福江島に船は停泊するのが常だった。ここで、風待ちをしたり、食料や水を積み込むのである。故郷

五島三井楽から日ノ浦へ

なんと五島福江空港に降りた。レンタカーを借りて福江島の三井楽を目指す。日曜日というのに、ほとんどすれ違ふ車も人もない。牛が放牧されているの見える。



三井楽柏崎には遣唐使の碑がたっている

見納めの土地である。私が福江に向かったときは、台風二十三号が上陸した時だった。午後三時すぎ、京都駅では「これが、最後の新幹線です。これ以後、新幹線は到着がありません」というアナウンスが流れていた。その最後の新幹線に乗り、新大阪で乗り換えて九州に向かうことにした。飛行機も飛ぶかどうか、行ってみなくてはわからない。不安だが、命の保障はある。大師のご苦労に比べれば何となくともない。

三井楽にある「遣唐使ふるさと館」で地図をもらう。三井楽は、古くはミミラクあるいはミラクと呼ばれた地で、遣唐使の船が最後に寄港し水や食料を補給した土地

だ。第十四次遣唐使からは、ここから真っ直ぐに大陸へ向かうコースをとっている。大師は、第十六次の遣唐使である。ミミラクは、人が死んで三年たつたら再生すると伝えられていた土地でもある。ミミラクに行けば、死んだ人に会えるという伝説があった。西の果ての地であり、都の人は、極楽浄土に近いと信じていたのかも知れない。西の果てであることは間違いないが、極楽というには、荒涼とした所である。岬の北端は柏崎という土地で、灯台があり、その横に遣唐使の碑が建っている。この場所もわかりにくく、網の手入れをしている老婆に聞いて、ようやくたどり着いた。

遣唐使は、死を賭けての旅である。当時の役人には、敬遠されていた。「順風が吹かなかった」と言い訳して遂に行かなかった人もある。仮病を使って逃れた役人もいる。政敵を遣唐使に推薦して追い払う、あわよくば死を願うという陰険なやり方も横行していた。鑑真大和上が、東シナ海を渡るのに五回も失敗して、その結果盲目になったということをみても、両国を海路で渡る厳しさは歴然として

天平五年(七三三)第九次遣唐船で旅立つ我が子の無事を祈る母の歌が万葉集にあるが、その返歌として「空高く旅する鶴達よ、霜降る野に眠る我が子を見たら、どうぞその羽で包んで暖めておくれ」とある。

大師と同じ船に乗船していた空海は、ここで「辞本涯」という言葉を残している。日本の涯(は)を辞す(去る)という意味である。言外に「もう戻ってこないかも知れない」というニュアンスがにじんでいる。しかし、大師は、そのような言葉を残していない。「必ず行く、必ず帰る」という強い決意があったに違いない。

だが、柏崎にたずねてみると、間近に姫島が見えるだけで、あとは蒼茫たる東シナ海が広がっているのみだ。海岸に押し寄せる波は荒く砕け、ここから、木造の帆船に

乗って、風まかせで中国へ向かうなど、怖気で足がすくむ。よほど強い意志と使命感がなければ「順風吹かず」と称して逃げ帰らなくなるだろう。事実、延暦二十四年七月六日に田ノ浦から出航した遣唐船四隻が好天に恵まれたのは一日のみで、翌日から暴風雨に翻弄され、帆は破れ、舵は折れてしまうのだ。二隻は、沈没してまう。

当時の船は、排水量三十トン、長さ三十メートル前後で、主たる推進力は、人力の櫂で帆は補助的なものであった。大師伝は「滄海中に於いて卒に黒風起り、船を侵すこと常なり、諸人悲しみを懐き生を待むもの有ることなし」と記す。このときに、大師の大慈悲心により、所持してい

生還率50%の旅へ

白鳥神社へ向かう。すでに、昼食の時間を大幅に回っているが、福江市街をぬけて郊外へ出れば、食堂など一軒もみつかからない。大師のご苦労を思い、我慢することにす。白鳥神社は、大師が航海の無事を祈願して参籠したという伝説のある神社だ。神社の参拝道は、本道路から切れ込むようにあるのだが、案内表示は小さくて、よほど注意していないと見逃してしまいうことになる。なにしろカマボコ大の看板に「白鳥神社」と書き付けたものが、草木に隠れるように打ち込んであるきりである。うっそうと茂った木々の下に、車一台分がようやく通れる道がついている。車を乗り入れてみれば前を飛ばすは、森に棲みついているカラスだけで、人影などはまったく見えない。車同士のすれ違いなど、もちろん出来ない。下は崖になってるので、脱輪しないように慎重に降りてゆく。道は、下に向かって急に湾曲しており、そろそろと降りてゆくといいいいかたがびたりくるのである。ようやく森をぬけて、視界が開けると、海に對面するように建っている白鳥神社が姿をみせた。

十一面観音像

古い大鳥居の向こうが社殿である。階段を登ると玉之浦湾を見下ろすように景勝であるが、人の気配はない。ただ、海上にある漁船から、私の挙動を監視するかのごとく、漁師達がじっと観察している。この神社に参拝する人がよほど珍しいという感じが、急に大粒の雨が落ちてきた。瀬戸内寂聴師も、この神社に参拝したとき雨にたたられたと書いているのを読んだことがある。何か因縁があるのか、それとも台風の余波だろうか。

今も、しんと静かな土地である。当時、参籠して、瞑想されたとすれば、比叡山を彷彿とさせる静寂さが大師を包んだであろう。ただ、比叡山とは異なる波の音を聞きながら、大師は航海の無事を祈念されたことであろう。

ここで、大師は無事を祈って十一面観音を刻まれたという。また一説には、大師が帰国の時、対馬に流れ着いたため、白鳥神社に御礼参拝ができずに、奉納したものともしいう。いずれにしても、その



海に面して立つ白鳥神社

も漂流するなど、考えるだけに怖ろしい。桓武天皇の期待を一身に受けて、新しい仏教によって国の形を整えるという燃えるような希望を感じていた大師であった。やはり不安はあったのではない。生還率五十%に加えて、千二百年前の航海技術である。しかし、当時の中国仏教は、世界最先端のものだった。現代でいえばハイテクである。これを導入しなくては、日本の将来はないと大師は考えられた。また事実その通りであったといえる。

日本の最西端の島の果て、大瀬崎断崖から東シナ海に沈む太陽を見ながら、千二百年の歴史と宗祖の偉大さを感じるのである。(文・横山和編纂長「仏と生きる」は休みます。)

大師が刻まれた十一面観音像は、現在島の最南端の大宝寺にある。白鳥神社からは、約一時間の距離である。西の高野山といわれる大宝寺も、また海に面するように建っている。住職にお願いすると、本堂の左端の厨子にお祀りしてあるのを、みずから懐中電灯を手に見せて頂いた。「今年は、真言宗でも訪中団を組織しております。私どもも教区で今秋訪中します」と語られた。

大師の出航した田ノ浦から、海上ボートを出してもらった。モーターボートを少し大型にしたような船である。気温は二十度ぐらいいはあったが、走り出すと風が非常に冷たい。波ぶきで顔に容赦なくかかる。大きく揺れるたびに、足の下に海を感じる。嵐にもまれながら五十日

「ネット天台」天台宗寺院のポータルサイト誕生

～情報と情報を結び、人と人を結び架け橋～

推薦…天台宗務方 協力…比叡山足庵寺

ネット天台とは

- ネット天台概要
 - ①(株)城プロダクション(日本映画監督協会会員 日本アカデミー賞協会会員)が企画・運営する天台宗寺院をネット上で紹介するサイトです。時代は癒しを求めています!今こそ心をやすらげられる寺院本来の姿を紹介してみませんか?
 - ②登録形式は2種類
 - ・「80文字無料紹介」版…無料で寺院の基本情報を登録します。
 - ・「オリジナルページ」版…3ページに及ぶ寺院情報を有料で登録します。
 ※オリジナルページ料金=初期制作費 31,500円、月額維持費 1,575円(年間一括払い)
 - ③詳しい説明及び、パンフレット等資料のご請求は、サイトからまたは、電話です。

特集記事に関する情報募集のお願い

- ネット天台では、毎月特集記事といたしまして、さまざまな情報を掲載し皆様のご協力をお願い致します。
- 募集内容
 - ①第三回特集記事「紅葉(仮題)」…皆様の寺院の紅葉情報を教えてください。募集方法…寺院名、ご担当者名、住所、電話、紅葉の写真数点、紹介文を下記の宛先まで11月15日必着でご郵送下さい。
 - ②第三回特集記事「初詣(仮題)」…皆様の寺院の初詣情報を教えてください。募集方法…寺院名、ご担当者名、住所、電話、初詣・正月の行事の写真数点、紹介文を下記の宛先まで11月15日必着でご郵送下さい。

※ ご不明な点がございましたら、下記電話番号までご連絡下さい。

ネット天台: <http://www.net-tendai.jp/>

TEL: 03-3913-8922 FAX: 03-3913-8993 〒115-0043 東京都北区神谷1-29-8-203 株式会社城プロダクション

天台宗ニューヨーク別院 本堂落慶記念参拝団

三千院門跡小堀光詮御門主御親修

期 間 平成17年6月24日(金)~29日(水)
 旅行代金 254,000円
 募集人員 100名
 申込締切 平成17年3月末日
 宿泊先 ニューヨーク・ヒルトンホテル(4泊)
 主催 天台宗海外伝道事業団
 申込先 (株)阪急交通社 東京団体支店営業2課
 「天台宗ニューヨーク別院本堂落慶記念参拝団」係
 担当者:永野・山本・落合
 TEL 03-3508-0280
 FAX 03-3508-0368



念願の総大門完成

座主親下ご親修のもと落慶式 開宗二百年の記念事業として発願

九州の厄よけ寺として信仰を集める九州東教区の臨濟寺(秦順照住職)では、去る十

月十七日、渡邊進天台座主親下を導師に、西郊良光天台宗宗務総長はじめ一宗関係者の随喜のもと総大門落慶法要を執り行った。
 落慶となった総大門は入母屋造り、全高・全幅とも十メートル奥行き六メートル、仁王像と風神、雷神像が奉安されている(写真)。

臨濟寺では、境内整備工事の一環として既に新本堂と浄土院を建立しており、第二期

分濟
臨濟

工事として今春三月末にこの総大門を完工、それを受けて同日の落慶法要の運びとなった。

同日は、総大門の通り初めの法要に始まり、華やかな稚児行列に続いて、午前十一時より渡邊座主親下導師のもと、本堂にて落慶法要が厳修された。秦住職は「開宗二百年の記念としてこのような立派な総大門が檀信徒の方々、全国の篤信者の皆さんの心が一つとなって建立出来た。感謝に堪えない」と落慶の喜びを語っていた。

「人に教えてあげたい仏教語」

滋賀・教林坊 廣部光信師が発行

「しやりき」という言葉は日常、よく使う。躍起になつて物事をする様を指す言葉だが、では、漢字でどう書くのだろうか。多分、正解は少ないに違いない。正解は「釈迦力」。釈迦様が衆生を前に一所懸命、教を説かれたことに由来する言葉だ。日頃、仏教に興味もなく縁もない生活を送っている人でも、ふだんの会話に数多くの仏教語を使っている。ただ、その

言葉のルーツを知らないだけだ。このほど、隠れ里・石の寺として知られている教林坊(廣部光信住職)が刊行した『人に教えてあげたい仏教語』では、そうした仏教語の中から特に三十三の言葉を選び出し、やさしく解説している。発刊に当たって、廣部住職は「一般的な理解とは異なる仏教語本来の意味に気付くことで、仏教の教えを再認識していただくきっかけになれば幸いです」と語っている。同書は一冊二百円。問い合わせは〒五二一―一三三三・滋賀県蒲生郡安土町石寺一―四五教林坊(電話・FAX:〇七四八―四六一五五三九)まで。



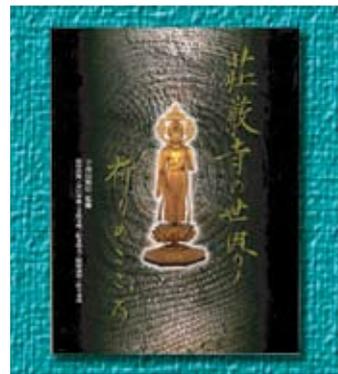
識していただくきっかけになれば幸いです」と語っている。同書は一冊二百円。問い合わせは〒五二一―一三三三・滋賀県蒲生郡安土町石寺一―四五教林坊(電話・FAX:〇七四八―四六一五五三九)まで。

木寺「寺史」を調査・発刊 祈りの声を聞きたい

激しい時代の移り変わりの中で、由緒ある寺も本殿の焼失や仏像の散逸など幾多の苦難を経験する。同時に無形の「寺の歴史」も同様に失われてしまう。後世、その歴史を辿る作業を行おうとすれば、専門的かつ地道な努力が要求される。栃木教区の莊嚴寺(宇南山照住職)がこの程刊行した「莊嚴寺の世界・祈りのこころ」はその難しい調査、研究をやり遂げ、寺史としてまとめた希有の例である。宇南山住職は「この寺史

の刊行の基根には、仏像、古文書、建築物、遺跡等を通して当時の人々の「祈り」の声を聞きたいという願望がある」と発刊の趣意を述べている。
 阿弥陀如来立像をはじめ各仏像から発見されたおびただしい胎内納入品についての章を読むと、その時代の人々の信仰心の形がまざまざと感じ取られ、当時の人々の息吹が

伝わってくるようだ。その他の章も専門家の手によって精緻な考察と分析がなされ、寺の歴史にまつわる人々の当時の生活や考え方が浮かび上がってくる。非売品だが、これから寺史を編纂しようと思う人には、参考にして頂きたい力作である。
 【栃木二小松賢通通信員提供】



祝 新任職任命

- 【信越・福満寺】入来院大團師
- 【南総・延命寺】松本香昭師
- 【南総・三光寺】松本明純師
- 【福島・清龍寺】石川祐幸師
- 【京都・尊勝院】上田寛順師
- 【栃木・日増院】中里卓雄師
- 【※玄清法流・福智院】大塚雄華師
- 【※玄清法流・福智院】非法人寺院設立による新任職任命(平成十六年九月二十五日)十月二十七日 法人部調べ)

示 寂

藤 盛壽師
 平成16年9月16日遷化
 九州西教区浄善寺住職
 10月23日日本葬儀執行

天台トピックス

◎功労者を表彰
 十月二十二日、平成十六年度の天台功労者表彰が延暦寺書院で行なわれ、渡邊進天台座主親下から表彰状が手渡された。
 ・住職勤続五十年 17名
 ・住職勤続三十年 45名
 ・一宗公職勤続功労者 14名
 ・布教功労者 30名
 ◎中央研修会開催
 寺婦人連合会(大沢和世

会長)では、十月十四日、天台宗務庁を会場に、中央研修会を開催。秦順照社会部長の講演、七会場に分かれての分散会等が行なわれた。また、翌十五日には、延暦寺大講堂において「寺婦の日」報恩法要が執り行われた。
 ◎延寿会総会を開催
 十月二十一日、湯元館(大津市雄琴)を会場に、延寿会総会(半田孝淳会長)が開催

◎天台教学大会
 11月5日~6日
 宗務庁・大津プリンス
 ◎檀信徒祖山参拝研修会
 11月19日~20日
 比叡山居士林

各地で特別授戒会盛んに開催



天台宗が展開している「開宗千二百年慶讃大法会」期間が始まってから、今秋も各地での特別授戒の開催が続いている。各教区は希望をする戒弟への説明と実施に向け、奮闘している。

今回は横浜南部、相模一、二、三部、山梨部内から七百九十三名が授戒することになり、折しも台風二十二号が接近し小雨降る中、貸し切りバス等を利用して会場に集合した。

午後一時半、大久保良宗務所長の開式の辞が始まり、西郊良光天台宗務総長が「江戸時代にも十万人の授戒

が行われた。今日も伝教大師が説かれたご精神を有り難くお受け致しましょう」と挨拶。続いて、説戒師の須藤大元神奈川教区布教師会会長から授戒についてのユーモアを交えながらの説明があった。授戒は、仏教青年会会員の声明と横浜北部興禅寺雅楽会の調べが流れる中、伝戒大和上の森川宏映毘沙門堂探題大僧正が入場すると、会場は緊

張と興奮に包まれた。伝戒大和上の戒の一つ一つの言葉を戒弟一同で唱和、その意味を噛みしめながら、壇上でお剃刀を受けると、感動も頂点に達していた。帰りのバスの中で授戒かった法名を見ていた授戒者の一人



は「自分に合った良い名を頂いた。伝戒大和上とあんなに近いくところ合、感動しました。優しい目をしてもらったのが印象に残っています」と喜びを語っていた。【神奈川Ⅱ赤沼徳祐通信員】

兵庫教区では、9月16日から18日にかけて、三座にわたって奉修。前半は森川毘沙門堂門主、後半は小堀三千院門主が戒和上を勤めた。【兵庫=加藤哲崇副所長】

特別授戒会執行状況 (10月20日現在)

◆兵庫教区	あすかホール・9月16～18日	
	毘沙門堂已講大僧正	戒弟 1 2 6 1 名
	三千院探題大僧正	戒弟 7 2 7 名
◆南総教区	石堂寺・10月2日	
	恵日院探題大僧正	戒弟 2 7 名
◆神奈川教区	鶴見会館・10月8日	
	毘沙門堂探題大僧正	戒弟 7 9 3 名
◆九州東教区	善正寺・10月14日	
	三千院探題大僧正	戒弟 2 8 1 名
◆東海教区	妙乗院・10月17日	
	毘沙門堂探題大僧正	戒弟 2 5 6 名
◆埼玉教区	慈恩寺・10月19日	
	恵日院探題大僧正	戒弟 3 8 9 名

デスクから

台風23号及び新潟県中越地震で亡くなられた皆さまに心よりお悔やみ申し上げます。

また被災された皆さまには、お見舞いを申し上げます。新潟県中越地方に派遣された先発隊の報告を聞く。この時点では、十日町附近にしか入れなかったという。被害の甚大な小千谷市へは土砂崩れで通行止めとの情報だった。小千谷市は、天台宗寺院でも、連絡がつかない所が多い。進入ルートを探る。今号より各教区の通信員各位から寄せられる記事もクレジットを付けて特派員扱いの割付に改めるようにした。●十月二十九日、今号の校正を終了、印刷に回す。じりじりしながら、こまではデスクを動かすことができなかった。号外発行の予算を確認し、現地対策本部と電話で打ち合わせを終えた。これから新潟へ出発する。なおも避難が続く、兵庫豊岡市の風水害被害も現地通信員から届いた詳細報告をチェックする。

コンパス 天台宗機関顧問 杉谷義純



今年クマが人里に現れ、人間を襲う事件が多発している。なかには民家に入り込み居座ったので、御用になったクマもいる。又クマ除けグッズも結構売れているらしい。さてクマに突然出会ったらどうするか。死んだふりをするとい、などと昔からいわれているが、ダメである。クマは用心深いので、触ったり叩いたりして調べるので、その間に少しでも動いたらおしまいだ。最後のクマ撃ちの猟師といわれた姉崎さんによると、睨めっこがいそうである。

元来クマは人間をよく観察して、出会わないように

うにしているらしい。昔はノコギリ、今はチェーンソーなどで、一人で大木を切り倒しているのが人間だ。クマには到底できない芸当なので、クマは人間の力を恐れているのである。だから人間とクマが鉢合わせになれば、逃げ出したいのは、本当はクマの方なのだ。しかしクマは弱味を見せて人間に襲われたら大変と考え、威嚇しながら逃げ道を探す。ところが実際は人間の方がよりパニック状態になってしまいうので、クマは自分の方が強いのだと思いき、逆襲することになる。そこで有効なのは、自分をなるべく大きく見せ、大きな声や音を出してクマを威圧することだ。その時

けて動いてはならないという。これは相手を襲わないというサインなのである。追って来ないと解れば、クマは安心して撤退する。これが自然界のルールだぞうだ。クマの出没については、環境破壊のせいだとか、夏の高温で植物に異変が起き、クマの食物が山に少ないとか、台風によるストレスなど、いろいろいわれている。しかし、根本は、人間とクマとのほど良い緊張関係がくずれたことを忘れてはならない。クマにとって危険を犯してでも人里に出なければならぬほど山が荒れてしまったか、過疎となり人里が危険でなくなつたか、こうなつては

づれにとつても不幸なことだ。二言目には環境保護、動物保護というが、本来保護するものと保護されるものは、対等なければならぬ。保護するものが保護されるものから学び、かつ畏れを抱く姿勢がなければ、本当の保護は成り立たない。我々は人間とクマが共業の世界に生きていることを、どれほど自覚しているだろうか。クマごとではないのである。フナは六、七年ごとに大量の実をつける。子孫を殖やす自然の摂理だろうが、山の動物にも恩恵を施す。来年はそんな年になつてほしいと祈るばかりだ。人間は決して大きくはない。

真新しい袈裟に身を包み = 埼玉教区で集団得度式 =



去る八月二十七日、埼玉教区宗務所(釈迦寺)において、平成十六年度の教区得度式が厳かに執り行われた。得度式では、戒師に森田幸雄宗務所長、臨監に清水英雄宗議会議員を迎え、多くの先徳に見守られる中、男女四名が新たに仏弟子となった。

得度者を代表して、常安寺法嗣となった柴生田真咲さんが、誓いも新たにこれから僧侶として生きていくことの自覚と抱負を語り、真新しい袈裟に身を包み、僧侶としての第一歩を踏み出した。【埼玉Ⅱ永島祐照通信員】

12月1日は天台宗全国一斉托鉢

「地球に慈愛(あい)の灯を！」をスローガンに、今年も12月1日に「天台宗全国一斉托鉢」を実施致します。毎年、全国で展開されているこの一斉托鉢は、大きな成果を上げており、その浄財は、地域還元のために社会福祉施設やNHK歳末助け合いなどに寄託しております。

また、長期にわたり実施できるように12月を「地球救援募金月間」と定めております。一斉托鉢にご参加、ご協力下さいませようお願い申し上げます。

参加・協力のお問い合わせは、最寄りの天台宗寺院または、一隅を照らす運動総本部(TEL 077-579-0022)まで。



十月二日、天台宗務庁大会議室に於いて、一隅を照らす運動環境問題公開講座が開講され、作家の立松和平氏が「自然とともに」と題して講演を行なった。講座には、九歳から六十代までの約百五十名が

一隅を照らす運動 公開講座

「自然と共に」

立松和平氏『共生』の重要性を講演



参加した。立松氏は自身の体験から「全ての動植物の死の上人間が存在し、命が命を支えている。自然の原理、存在の深さを認識し、自然との繋がりを『共生』を常に意識して欲しい」と話した。

講演を終え、感銘を受けていた参加者からは「このように」との声が聞かれた。

写経修行や禅の心を体験

真如堂で一隅大会開催 京都



十月十八日、京都本部(羽生田寂裕本部長)では、京都・真正極楽寺(齋藤眞成貫主)真如堂を会場に、天台宗開宗千二百年記念一隅を照らす運動京都大会が開催され、檀信徒約二百余名が参加した。午前は、伝教大師降誕慶讃法要が営まれた後、写経修行が行なわれ、参加者は静かに取り組んでいた(写真)。午後からは、臨濟妙心寺派龍源寺住職で南無の会副総務の松原哲明師による「命と心」と題した法話の集いが行なわれ、禅を通しての法話に、参加者一同は感銘を受けていた。

な講座があれば何度でも参加したい。毎年継続して欲しい」との声が聞かれた。

寒風の中一足早く托鉢を実施

浄財は地元社会福祉協議会へ 陸奥

十月二十三日、陸奥本部(菅原光中本部長)では、十二月一日の天台宗全国一斉托鉢に先駆けて、青森県南津軽郡尾上町界隈で、僧侶、檀信徒合わせて三十五名が一足早く托鉢を行なった。

同日、東北地方の岩手山・八甲田山・岩木山に初冠雪が降り、寒風の強い一日となったが、同町内を托鉢行脚し、多くの方々から浄財が寄せられた(写真)。

この一日で寄せられた浄財十九万八千八百七十三円は、尾上町社会福祉協議会に寄託された。

実践3つの柱

- 「共生」…地球に優しい生活をしよう
- 「奉仕」…ありがとうの心で行動しよう
- 「生命」…あらゆる命に感謝しよう

Tシャツ収益金を一隅総本部に寄託

ラオスTシャツ有志の会

十月五日、「ラオスTシャツ有志の会」事務局の、大宮孝舒師(茨城・妙行寺副住職)が、天台宗務庁を訪りし、ラオス学校建設資金としてTシャツ販売の収益金二十五万円を、壬生照道一隅を照らす運動総本部長に手渡した。この有志の会は、総本部が展開しているラオス学校建設



有志の会が製作したTシャツ

に参加したメンバー八名が、帰国後もラオスの子ども達のための活動を始めたため、Tシャツを通してラオスを知ってもらいたいという思いが込められている。

素晴らしい言葉たち

Wonderful Words

「黄金の魚」 谷川 俊太郎
 おおきなさかなはおおきなこちで
 ちゅうくらのいさかなをたべ
 ちゅうくらのいさかなを
 ちいさなさかなをたべ
 ちいさなさかなは
 もっとちいさな
 さかなをたべ
 いのちはいのちをいけにえとして
 ひかりかがやく
 しあわせはふしあわせをやしなうとして
 はなひらく
 どんなよろこびのふかいうみにもひとつぶのなみだが
 とけていないということはない

私たちは生きていくために、他の命あるものを犠牲にしています。そんなことは当たり前で、毎日、改めて考えることもありません。連鎖の輪という考え方があります。例えば小さな魚を、大きな魚が食べ、それを更に強い生き物が食べるということです。人間は、この輪の最頂点にいます。しかし、人間だって、死ぬばと肉体は土に還ります。ですから、連鎖という大きな輪の頂点にいます。絶

対の存在ではありません。私たちは他の命を頂いて生きています。いいかえれば、他の生き物の不幸せで、生きていくわけです。であれば、循環の摂理に対して畏敬と謙虚の思いを持つことが大事です。そうすれば、他の生き物と共にこの世に在ること、そして命を貰うことへの感謝が自然と湧いてきます。私たちは、共生のサイクルの中で生きているのだという自覚を忘れてはならないと思います。

掲示版

各地の推進大会

近畿大会
 日時：11月14日(日) 11:00～
 会場：本山寺 高槻市大字原3298
 講師：真嶋 康祐師 (延暦寺一山乘院住職)

三岐大会
 日時：11月21日(日) 13:00～
 会場：美江寺 岐阜市美江寺町2-3
 講師：壬生 照道師 (一隅を照らす運動総本部長)

信越大会
 日時：11月29日(月) 13:00～
 会場：善光寺大勧進 長野市元善町492
 講師：山本 光賢師 (延暦寺副執行)

